

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	土井 駿介
<p>題 名 Prognostic relevance of sarcopenia and tumor-infiltrating CD8+ T cells in patients with hepatocellular carcinoma</p> <p>(和 訳) 肝細胞癌におけるサルコペニアと腫瘍浸潤リンパ球が予後に及ぼす影響</p> <p>【目的】サルコペニア，腫瘍浸潤リンパ球 (TILs)，および肝細胞癌 (HCC) 患者の長期予後との関連は明らかにされていない。本研究では，HCC 患者におけるサルコペニアと TILs の予後的意義を評価することを目的とした。</p> <p>【方法】肝切除を受けた HCC 患者 351 例を対象とした。サルコペニアは，術前 CT を用いた骨格筋指数に基づいて定義した。肝切除標本において，腫瘍浸潤 CD4+および CD8+ T 細胞，パーフォリン，グランザイム B の発現を評価した。</p> <p>【結果】サルコペニア患者は，非サルコペニア患者と比較して，有意に低いリンパ球数 ($p = 0.003$)，予後栄養指数 ($p = 0.017$)，CD4+および CD8+ T 細胞数 ($p = 0.008, p = 0.006$) を示した。また，サルコペニア患者の全生存 (OS) および無再発生存 (RFS) 率は，非サルコペニア患者と比較して有意に低かった (いずれも $p < 0.001$)。多変量解析の結果，サルコペニアおよび low CD8 が，OS および RFS の強力な独立した不良予後因子であることが明らかとなった (いずれも $p < 0.001$)。サルコペニアの有無に関わらず，high CD8 の患者は，OS および RFS が有意に良好であり，パーフォリンおよびグランザイム B の発現が増加していた。特に，サルコペニア患者のうち high CD8 群は，low CD8 群と比較して OS および RFS が有意に良好であり，その生存率は非サルコペニアかつ high CD8 の患者と同程度であった。</p> <p>【結論】サルコペニアおよび low CD8 は，HCC 患者における強力な独立した不良予後因子である。一方で，サルコペニア患者であっても high CD8 を有する場合は良好な生存率を示し，局所免疫の活性化が認められた。これらの結果は，腫瘍浸潤 CD8+ T 細胞がサルコペニア患者において機能的に重要な役割を果たしている可能性を示唆している。</p>	